

献呈の辞

本年3月31日をもって定年を迎えられ、島根大学教育学部を退職される中川政樹先生は、教育学部における1999（平成11）年の福祉社会コース創設に学部長として尽力されるとともに、その後の教室運営・学生教育にも参画され、さらに2004（平成16）年、コースの法文学部への移設に際しても大きな役割を果たされた。先生のご尽力がなければ、現在の福祉社会教室はあり得なかったといっても過言ではない。教育学部福祉社会教室の後身たる法文学部福祉社会教室が発行する本誌を、中川先生のご退職記念号として刊行させていただく所以である。

中川先生は1970（昭和45）年4月、大阪市立大学大学院法学研究科博士課程から、弱冠25歳で政治学担当の助手として本学に赴任されて以来、40年間の永きにわたって教育学部社会科教育研究室（現共生社会教育講座）に所属され、幾多の有為の人材を教育界に送り出してこられた。研究面では、先生は、パレート、モスカ、クローチェ、ジェンティーレらを中心とした近代イタリア政治思想研究、ならびに投票行動や地方議会の分析を中心とした地方政治研究をご専門とされ、その丹念なお仕事の成果は32編に上るご論考、4冊の共著に結実している。学部運営の面では、入試委員長などの要職を歴任されたのち、1996（平成8）年から2000（平成12）年にかけて、二期にわたって教育学部長を勤められ、さらに2000年からの2年間は、新設された副学長（教育担当）の重職にあつて、法人化前夜の困難な大学運営の中樞を担われた。この間、イタリア学会評議員、大学評価・学位授与機構大学評価委員会委員や島根県明るい選挙推進協議会会長など、学外でも数々の要職に就かれ、学界のみならず地域社会の発展にも大きく寄与されている。

このように、中川先生の学内外へのご貢献にはめざましいものがあるが、冒頭にも触れたとおり、福祉社会コースにとっては、まずもってその創設に際して大いにご尽力いただいた。1997（平成9）年、当時の文部省による教員養成学部学生定員削減の方針を承け、教育学部内では従来の教員養成課程・生涯学習課程に加えて新たな課程の創設が模索されていた。学部長であられた中川先生は、錯綜する学部内の議論を集約して福祉社会コースの設置を決断され、改組のための特別委員となられた木村東吉先生、横原茂先生らと共に、山積する難問を一つ一つ解決して、中四国地方の国立大学では初の社会福祉士養成コースの実現にこぎつけられたのであった。爾来、先生は福祉社会教室の運営・学生教育に積極的に関わられ、教室発行の雑誌『福祉文化』——ご自身もたびたび寄稿された——の編集も手がけられた。また、コースが属する生活環境福祉課程の課程代表として、先生には大局的見地からさまざまなご指導・ご助言を頂戴した。2002（平成14）年には、教育学部が教員養成特化へと大きく方向転換し、福祉社会コースの存続が危ぶまれるなか、法文学部との折衝や当時の吉川学長との会談など、学部の枠を越えた水面下の交渉の過程で、副学長の重職を経験された先生のお力添えは絶大な威力を発揮した。その甲斐あつてコースは無事、2004（平成16）年度から法文学部社会文化学科に移設され、その後の社会福祉学担当教員の増員もあつて、教育学部時代に比して格段に充実したコースへと発展することができたのであった。

以上のように、中川先生は福祉社会コースの発展に多大なご功績を残された。本誌『島根大学社会福祉論集』第3号を先生のご退職記念号として捧げさせて頂くことで、ささやかながら先生のご尽力・ご学恩に対する感謝の意を表わすとともに、あわせて先生の今後のご壮健を祈念して、献呈の辞としたい。

2010年3月

福祉社会教室主任 山崎 亮